

儒学論集

儒学文化 第8号

巻頭言

## 今こそ温故知新の精神を

学校法人昌平覺 理事長

儒学文化研究所 所長

田久孝翁

今日、世界的にも国内的にもさまざまな問題が生じている。テロや戦争はとどまるところを知らず、環境破壊は地球上のあらゆる生命の生存を脅かしている。国内的にはいじめやそれによる自殺、企業における不正や偽装問題ほか、生活や社会のあり方、信頼等を根底から覆すようなことが頻発している。これまで私たちはこころの芯となるものをいくつももってきた。それらは『論語』によるところが多いといえる。思いやり（恕）や正しさ（義）、偏らない（中庸）や宇宙の摂理に従う（調和）他、社会の秩序にとって大切なものをたくさん持っていた。

しかし今日、学校でのいじめは自殺にまで至り、社会に大きな衝撃を与えている。それは加害者における思いやり（恕）の欠如であるとともに、被害者の自殺は親への最大の不孝をもたらすことだといえる。『論語』に「己の欲せざる所は人に施すことなかれ」とあるが、こうした社会生活に於ける最も大切な基本を、親も学校も地域も教えていない。親への感謝の第一歩は自らの身体を傷つけないことであるという『孝経』の言葉は今や死語となってしまうている。又企業における不正や偽装問題なども、日本の近代化を成し遂げた実業家の渋沢栄一が常に心がけていたように、「利」を求める時には「義」を思う気持ちを持つならば、必ず避けられるものであろう。

環境問題他にしても2500年以上も前に書かれた「四書五経」の中に多くの示唆に富んだ教えが含まれている。それらを学ぶことによって今日のような状況は避け得たであろう。今こそ、先人達の知恵を学び、「温故知新」の精神を呼び戻す必要があるのではないだろうか。